

兵庫県こころのケアセンター 平成28年度実施分に係る
外部評価委員会 業績評価（総合評価）

所 見

- 1 ト라우マ・PTSDに関する専門的な相談・診療、研修・研究等の機能を持つ全国初の「こころのケア」の拠点施設として、平成16年4月の開設後13年目にあたる。
この間、研究、人材育成・研修、情報発信・普及啓発、連携・交流、相談・診療の五つの機能を相互に連携しながら、多様な取り組みを進め、効率的かつ効果的に展開している。
- 2 平成28年度に特筆すべき点は、平成28年4月に発生した熊本地震において、平成26年に設置された「兵庫県こころのケアチーム：ひょうごDPAT」として初めて被災地支援を行ったことである。職員を被災地へ派遣し、倒壊のおそれのある精神科病院からの入院患者の搬送支援や避難所、施設、被災住民への精神科医療の提供、精神保健活動の支援および啓発活動や支援者支援を行うとともに、派遣終了後も熊本県、熊本市、大分県等被災地の精神医療関係者等へのコンサルテーション及び講師派遣を行っている。また、熊本地震での実践経験を生かしDPAT研修会の実施等、DPATの体制整備に係る支援を行った。
このように当センターの蓄積された知識・技術を持って、積極的に被災地支援を行うことは高く評価される。
- 3 また、「こころのケア」に関する専門知識・技術の開発と普及に務め、研修事業、情報の収集発信・普及啓発事業、ヒューマンケアカレッジ事業のそれぞれについて効果的な活動を行い、いずれについても高く評価できる。特にホームページにおいて、災害時におけるこころのケアや子どものこころのケアについて内容の充実に努めてきた結果、平成28年度においては、年間目標（36,000件）を大幅に上回るアクセス数（111,827件）があり、当センターが発信した情報が多くの人たちに活用され、貴重な社会貢献を果たしたといえる。
- 4 「こころのケア」の全国的な拠点施設として期待に十分応え、複雑性悲嘆、発達障害とトラウマなど新たな分野への研究の拡大、子どものトラウマケアへの注力、トラウマ被害者に対応できる支援者の育成等に努めている。潜在的なトラウマ治療のニーズが相当あると推測される中、PTSDに有効とされるEMDR、PE、TF-CBTなどの技法を用いた専門治療のできる施設が少ないため、当センターが先導してこうした効果の高い専門治療を行っていることは大いに評価できる。
- 5 このように、当センターの様々な活動が高い社会的効用をもたらすだけでなく、その活動が評価され連携先の地域や機関の活動にも好影響をもたらし、連携がうまく進み拡張している。
- 6 今後の課題として、「定量的な目標達成がされていないもの」、「目標達成されているものの特定の定量指標の数値の伸びが低減傾向のもの」が認められるため、これらに対する次年度への対応策を定め、計画的に取り組む必要がある。また、当センターの有する重要なミッションに鑑み、引き続き先駆的・指導的役割を果たすため、設置者である県に対して一層の人的及び経済的充実を期待する。